

夢追い人



筑後民芸家具



民芸調テーブルセット（商品名 つどい）



会社の外観

船指物とは、船上に据え置かれたタンスや机などを指す言葉。その昔、河川を往来して商売・交易をする船で用いられた。船指物には商売用の書類や道具等が収容されていたという。金庫としての用途もあつた。筑後川流域でも船指物が作られていた。

(株)川野工芸は、この船指物の流れをくむ民芸家具を製造している。手作業を駆使して一品一品丁寧に製造する。伝統を重視する傍ら、斬新なデザインを持つ民芸家具へ昇華させる努力も払っている。格調高く贅沢な空間を演出する家具にするためだ。商標は“筑後民芸家具”・取締役

伝統の技術で作る 永く愛される民芸家具

（株）川野工芸
取締役 川野 清隆 さん

の川野清隆さんにお話を伺つた。

川野工芸は下駄箱製造メーカーだった。しかし三十年ほど前に父の後を継いだ川野さんは、船指物の流れをくむ民芸家具製造を志した。商品の差別化を図るために、ただ問題があつた……。見本にできる民芸家具がほとんどなかつた。川野さんは製作の技術をどこで学んだのだろうか。「勉強のため各地を回りました。技術を必ず自分のものにするとの気構えをもつてです。倉敷、鹿児島などはたびたび訪れましたね。目当ての家具に出会うと、持ち主に『是非見てください』と頭を下げた



ものです。そうするとほとんどの方は快く見せてくださり、家具の構造をつぶさに観察できました。」ひたむきな姿勢で修得したノウハウ。これが川野工芸が作る民芸家具の礎になつた。

さてここで川野工芸が作る民芸家具の特長に触れておこ

一つは、主に桐を使用すること。もともと船指物には桐を使う伝統があつたそうだ。なぜだろうか。「水上事故で家具が川に転落したとき、内部の書類や道具などを水分から保護するためです。桐には水を含むと膨張する性質があります。膨張して家具の隙間が小さくなると、内部に水が浸入しにくいのです。」

さらに船指物の「入れ込み」という技術も駆使する。これは「引き出し」製造のための技術。これにより隙間が狭くなり、ぴったりと家具本体に収まるのだ。一般に今製造されている「引き出し」はどうかというと、多くが「かぶせ」という手法が使われている。隙間が大きい。この「入れ込み」の技術は、昔、船指物の防水に役立つた。しかし「今では家具内部の湿度調整に役立っています。乾燥している気候では木材が収縮し隙間が

開きます。逆に湿気が多いと木材が膨張して隙間が塞がります。こうして内部が適切な湿度に保たれるので、衣類や書類などを保護できるのです。別の特長は、日本古来の「蟻組」の技術を用いること。釘やダボは一切使用しない。「これにより、そりの少ない耐久性のある家具になります。」

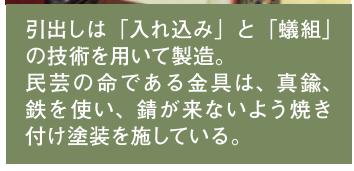
さて、塗装はウレタン塗装とカシュー漆の二種類がある。希望に応じて選べる。カシュー漆とは聞き慣れないが、どんな漆なのだろう。川野さんは説明してもらおう。「カシュー・ナツツ」の殻から搾りだした油を原料にして作る植物性の塗料のことです。漆に比べてリーズナブルです。カブレることもあります。光沢あふれる塗膜は一見漆と見分けがつかないと思いません。家具に装着する金具類は、鉄と真鍮を使つていて、高級感を漂わせている。



飾りタンス (商品名 130 車タンス)



飾りタンス (商品名 花模様)



引出しが「入れ込み」と「蟻組」の技術を用いて製造。
民芸の命である金具は、真鍮、鉄を使い、錫が来ないよう焼き付け塗装を施している。

川野工芸には非常に多い。シリーズもある製品を買



彩り階段チェスト

例えば、彩り階段チェストという商品。側面の一方の片側が階段状になっている。(写真参照)右下がり、左下がりの商品がある。その両方を購入されたあるお客様はこんな使い方をしているそうだ。「それぞれの階段面に向かい合わせに並べ、下から二番目の段に強化ガラスを置きテレビボードとして使っておられます。実に豪華で趣のあるテレビボードになつていいと思いまますね。別のお客様は、「彩り階段チェスト」を玄関に置いて、階段面に着物の帯をは



存在感のある鮮やかな朱塗り

川野さんの夢は何だろうか。「お客様の喜びと感謝の言葉は本当に嬉しいものです。それが作る喜びに繋がっています。手作りにこだわり、永く愛される、時代に応じた民芸家具開発にこれからも取り組み続けていきたいと思います。」